

《心がつながるコミュニケーションチェックリスト》

[全教職員対象(人権の視点)]

(評価基準 (A: 十分である、B: 概ね十分である、C: やや不十分である、D: 改善を要する))

評価項目	A	B	C	D
1 心身ともに余裕をもって授業に臨んでいる。 ・子どもの表情や動きで心を読み取り、気持ちに寄り添った支援や共感的な言葉かけができています。 ・働きかけの後、子どもの反応をゆっくり待っている。				
2 子どもが心を開いてリラックスして関われるような配慮をしている。 ・子どもを思いやった言葉使い、優しい雰囲気ですべて接している。 ・子どもの心や身体の状態に寄り添った関わりができています。				
3 子どもからの表出や動きを待つ時間をとっている。 ・子どもから要求を伝えようと発信するのを待っている。 ・教員が先に手や口を出さずに、見守っている。 (子どもに考えさせる時間、子どもが身体を動かす時間等)				
4 子どもの方を見て、コミュニケーションを図っている。 ・子どもと関わる時には、しっかり顔と心を向けている。				
5 「おはよう」「さようなら」「ありがとう」「ごめんなさい」等のコミュニケーションを大切にしている。				
6 子どもの気持ちを言葉で表したり、共感的な言葉かけをしたりしている。 ・「今、何を見ていたの?」「この絵本楽しいね」等、子どもがしていること、感じていることを言葉にして返したり言葉にして共感したりしている。				
7 子どもの気持ちを尊重した関わりをしている。 ・「やりたい」だけではなく、「嫌」「やりたくない」等否定的な気持ちを尊重し、否定的な気持ちの理由を聞く、刺激の量を減らす等コミュニケーションを図りながら関わっている。				
8 子どもの意思や気持ちを確認して関わっている。 ・子どもに何をするのかしっかり伝え、子どもの動き、子どもの返事を待ってから学習を始めたり、他者とのコミュニケーションをとったりしている。 (例) 子どもの反応を待たずに教員が手を添えて何かを握らせる、引っ張る、話す、教員が手を添えて一緒に「バイバイ」と手を振ったり子どもの代わりに教員が話をしたりする等はしていない。				
9 子どもの目線や基準で、頑張りや行動をしっかり認め、褒めている。				
10 子どもを褒めるときには、具体的に、意味づけをして伝えるようにしている。				
11 ポジティブフォーカス（できているところに注目すること）で子どもを捉えるようにしている。				
12 子どものペースや体調に合わせて指導や支援をしている。				
13 身体に触れるとき（例：姿勢変換時、移乗時）や車いすを動かすとき、大きな音を出すとき等には、必ず事前に伝えている。				
14 授業の振り返りのときに、子ども主体で行えている。 (例) 教員の感想にならないようにしている。				
15 一人一人が、自分の思いを表現できる場面を設定している。				
16 友達の気持ちや考えを担当の子どもに伝えようとしている。				

17	お互いの良さや違いを認め合うことができる配慮をしている。 ・友達の良いところ、頑張っている様子等を担当の子どもに伝えている。				
18	欠席した子どものことを考えられるよう話題にしている。				
19	学習グループの子ども全員とコミュニケーションを図っている。				
20	子どもが理解しやすい配慮をしている。 ・視覚支援（実物や写真カード等）をする。 ・簡潔で分かりやすい言葉使いをする。 ・グループの教員で言葉を統一する。 ・見通しを持たせる工夫をする。				
21	子どもの気持ちの読み取りが客観的に行えている。 ・授業の評価表を活用したり、学習グループの教員と話し合ったり、ビデオを見合ったりして客観的に子どもを見ることができている。				
22	授業の始まりと終わりの時間を守っている。 (授業に遅れて行ったり早めに終わったりしていない。)				